

Y28b

国立天文台野辺山における地域連携事業の紹介

衣笠健三, 内藤明彦, 西岡真木子, 宮澤和彦, 御子柴廣, 篠原徳之, 齋藤正雄 (国立天文台野辺山)

国立天文台野辺山には年間約6万人の見学者が訪れており、2013年には、1982年の宇宙電波開所以来の累計見学者数が300万人に到達した。また、特別公開では毎年2500-3000人の来場者があるなど、従来より見学対応においてたいへん力を入れている観測所である。一方で、地元との地域連携においては、観望会などを活発に行っている時期もあれば、あまり活発ではない時期もあり、近年まで定常的な活動には至っていなかった。しかしながら、「野辺山観測所で行われている観測は地元の方々の協力なくしては成り立たない」という思いから、まず観測所で行われていることについて地元の方々に広報するという指針が改めて打ち出されてきた。

一方で、地元の自治体においては星や宇宙を資源とした観光の機運が高まってきている。例えば、南牧村は「日本三選星名所」の一つとなり、他の自治体と協力して星を観光資源としてPRしていくこととなった。また同様に、南牧村のある佐久広域連合でも交流人口創出プロジェクトにおいて、観光資源のひとつとして星空をPRする動きが始まっている。

これらの状況にあって、野辺山観測所では地域の方々に向けたイベントとして「地元感謝デー」を今年度初めて実施した。これは、隣接する信州大農学部野辺山ステーションと筑波大農林技術センター八ヶ岳演習林との初めての共同イベントである。課題もあるが、「初めて何をやっているのかがわかった」という声を頂くなど、一定の手応えをつかんだイベントとなった。また他にも、特別公開での協力や、地域主催の企画である信州佐久星空案内人、宙ガールイベント「てぶらde星空観賞会」といったイベントなど、地域と協力、連携した企画を実施してきた。本講演では、これらのイベントとともに野辺山観測所の地域連携活動全般について紹介をする。